

海民シンポジウム&エクスカージョン in 五島

海の自然と共に生きる

—海流・季節風・海辺と地域社会—

2013年11月30日(土) 午後1~4時

はたなか イベントホール

(長崎県五島市中央町 7-20 TEL.0959-72-3346 <http://www.hatanaka.cc/eventhall.htm>)

長崎県五島列島と韓国の済州島は海でつながり、歴史的には「海民」が担う交易の拠点でした。対馬暖流と季節風は、両島に豊かな漁業資源や独自の生活文化、さらには人や物の漂流・漂着をもたらしてきました。ふたつの島には国こそ違いますが、多くの類似点があります。現在は交流があまりないのが実情ですが、海洋環境の悪化、生活文化や生態系の衰退、漁村の高齢化など、抱える問題もまた、類似点が多くあります。人と人とが現場で出会い、各地の自然史や民俗の中に埋め込まれた海民の足跡を持ち寄り、符号させることで、地域の課題解決や発展の可能性をさぐっていきいたいと考えています。

シンポジウム内容

1. ごあいさつ 五島へようこそ
2. シンポジウムの趣旨説明
3. 講演

「五島列島周辺海域の漁業」

渡邊 孝裕氏 (五島振興局農林水産部水産課長)

「文化交流、人的交流を通じた海洋の保全 (仮題)」

チュ・ガンヒョン氏 (済州大学碩座教授、アジア太平洋海洋文化研究所所長)

「済州道に現在も残る日韓の交流史 (仮題)」

キム・ドンジン氏 (済州大学博物館長、済州大学歴史学科教授)

「過去から現代までの済州道と五島列島の交流史 (仮題)」

ホ・ナムチュン氏 (元耽羅文化研究所所長、済州大学国文学科教授)

「韓国と日本の沿岸地域研究 (仮題)」

キム・ウンソ氏 (韓国海洋研究院 副院長)

日韓の NGO と市民のトークセッション

KIOST、エコ・ホライズンのみなさんほか

5. まとめ・おわりのあいさつ



エクスカージョン(見学会)

済州島と福江島

—自然とくらしの似たもの探索—

12月1日(日) 全日

※詳細は後日お問い合わせ下さい

「海民ネットワーク九州」は、海とのつながりが強い人を「海民」と呼び、海の現場で活動する市民と研究者による、ゆるやかな人のつながりです。平成 24 年に設立された任意団体で、韓国の麗水での海洋万博博覧会でのシンポジウム開催や、九州各地での海のイベント、調査を行っています。事務局は九州大学大学院工学研究院環境社会部門生態工学研究室にあります。

主催 ■九州大学大学院工学研究院環境社会部門生態工学研究室・海民ネットワーク九州

後援 ■長崎県五島振興局・長崎県五島市・長崎県五島市教育委員会

NPO 法人日本水フォーラム・アジア太平洋水フォーラム友の会

YSECP (Yellow Sea Eco-region Conservation Project : WWF Japan・KIOST・Panasonic)

企画・連絡先 ■清野聡子 (九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 生態工学研究室 准教授)

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 Tel/Fax 092-802-3425, 090-2407-8036

seino@civil.kyushu-u.ac.jp

■長崎県五島振興局 〒853-0007 五島市福江町 7-1 Tel 0959-72-4852



九州大学 KAIMIN-PROJECT

